

米子市 文化活動館 通信



大山の森のアサギマダラ



淀江海岸のアサギマダラ

研鑽積む「がいな太鼓」応援



館長 中村輝彦

新型コロナウイルス予防の切り札とも言えるワクチン接種は、先行した高齢者のほか、一般向けも進んでいます。一方、東京五輪・パラリンピックは、緊急事態宣言下での開幕となりました。大会には賛否両論がありますが、始まった以上は、国民がコロナ禍での疲弊から元気を取り戻すスポーツの祭典となる事を願います。

さて、文化活動館ですが、6月に募集した3講座は、初めての「織物教室」をはじめ、各教室がいち早く定員

に達して、幸先の良いスタートを切りました。7月には、さらに2講座が加わりました。募集で定員オーバーとなり受講をして頂けなかった皆さまには、大変心苦しく思います。今年度もコロナ禍で人数制限を継続しています。ご理解頂きます様お願いします。

間もなく、米子市の夏の一大イベント「第48回米子がいな祭」です。開催を大変喜ばしく思います。長い米子の歴史の中で、その時々地域振興への努力がなされてきました。米子人のその努力と熱い思いの結集が、現在の「米子がいな祭」に引き継がれていると考えます。文化活動館で研鑽を積んだ「米子がいな太鼓」の皆さんの活躍を応援します。



弓浜絨の世界(中)

伝統の技法で織り出す素朴な絵柄と風合い



弓浜絨は、弓浜半島の郷土色豊かで素朴な絵柄と趣のある風合いが最大の特徴の絨織物です。絨織りは江戸時代中期に始まったとされています。農家は出荷用の木綿織物を中心に、自家用あるいは副業としての絨織物づくりに励んでいたようです。「浜の目絨」や「浜絨」とも呼ばれた弓浜絨は、仕事着やふとんなどに用いられ、盛んに織られていました。優れた品質であったことなどから、江戸から明治時代にかけて隆盛を極めました、大正時代も人気を集めていましたが、近代化の波に乗った機械紡績の発展などで衰退しました。絵柄は鶴亀や松竹梅、吉祥文などバラエティーに富んでいました。伝統の技法は衰退しながらも脈々と受け継がれてきた結果、昭和50年に国の伝統的工芸品に指定され、今も人々を魅了する絵柄が織り出されています。(山)=次号に続く



四季折々

渡りをする蝶「アサギマダラ」 渡り鳥のように長距離を移動する珍しい蝶のアサギマダラ。寿命は羽化から5か月ほどと短いのだが、驚くべきことに、この間に約2000㎞を放しているという。南方系の美しい蝶で、茶色地に透き通るような青白いまだら状の文様が際立つ。春は台湾や南西諸島(鹿児島、沖縄県)などから、日本列島を北上して、秋に南下する。鳥取県西部にも、渡り途中に立ち寄っている。長年、大山(1729 麓)中腹の森とふもと米子市の海岸で観察している。上昇気流を巧みにとらえたアサギマダラは、ふわふわと舞うように大空に吸い込まれて移動し、新緑の森や磯の香り漂う海岸に降りてくる。森をゆったりと浮遊する姿は、妖精のようで幻想的な光景だ。一方、海岸では渡り鳥のシギたちの鳴き声を伴奏に優雅な舞いを披露してくれる。余談だが、無風の森でアサギマダラを目撃した際、頭上で白色タオルをくるくると振り回せば、引き寄せられるように近づいてくれる。アサギマダラに魅せられた一部ファンには知られた方法だ。なお、色地のタオルでは効果がない。アサギマダラの渡りが確認されたのは、わずか約40年前。渡りの実態はいまだに解明されていないという。(山)

学べる講座 アラカルト

今年度前半の教養講座が6月、スタートしました。新企画の「織物教室」(6回コース)をはじめ、実用的な講座として根強い人気の「社会で役立つ毛筆習字教室」(12回コース)、健康ブームの中で特に女性に好評の「ベーシックヨガ教室」(同)が先陣を切り、7月には「いざという時の着物着付教室」(同)、「初めての中国語教室」(同)が始まりました。秋からの後半は、第2弾となる「織物教室」(6回コース)のほか、「韓国料理教室」は2回開催の予定です。さらに「ロシア料理教室」なども準備しています。

◆織物教室 順調に始動◆ 初日の6月29日は、受講生12人と講師陣7人で行いました。講師は、手織工房 藍慈彩(あじさい)の2人が務められますが、この日は不慣れな受講生のアシスト役として手厚い陣容で臨みました。文化活動館は、新たに織機12台を導入して、受講生1人に1台を使用してもらいました。素材の糸は、経糸(たていと)、緯糸(よこいと)とも色鮮やかなベンガラ染めや伝統色の藍染めの本格的なもの。また、緯糸は地元の伯州綿を採用しました。受講生は今後、自分だけのストールを仕上げます。



織機(上)、糸(下)



織物教室

利用者の皆様 マスク着用をお願いします



ベーシックヨガ教室



習字教室



除草作業ですっきり
文化活動館周辺の除草作業
を5月16日、利用者有志と
職員計16人で行いました。

休館日 ◆8月＝毎週水曜日と8日(日)、9日(月) ◆9月＝毎週水曜日と20日(月)、23日(木)

利用時間 開館日の利用は平日と土曜日が9:00~22:00(日曜日は17:00まで)。部屋貸し出しは閉館の15分前まで。



あとがき

県職員を退職して、当館にお世話になって6年目(勤労青少年ホームを含む)。恥ずかしながら64歳となりました。いつの頃からか、白髪となって、お腹はぽっこり。まるで坂を転げ落ちるように馬齢を重ね、まだまだ若いと考えていた還暦は遠い日の記憶です。今や、立派な高齢者の仲間入り。楽しみは、コロナ禍で会うことがかなわない遠方の孫を、スマホの動画や写真で見ることです。コロナ禍は、当館でもマスク着用や換気の徹底などで、利用者の皆さんにご不便をお掛けしています。早く収束して、当館がかつての日常を取り戻し、私も孫たちとの再会を願っています。(八)

お申し込み・お問い合わせは 米子市文化活動館 ☎0859(34)5154

〒683-0802 鳥取県米子市東福原8丁目24-31 FAX=0859(30)4788

米子市文化活動館 指定管理者 旭ビル管理株式会社 <http://asahibiru.com/ybkk/>